

参考資料

大阪市障がい者施策推進協議会 精神障がい者地域生活支援部会

ワーキング会議 委員名簿

(敬称略：五十音順)

氏名	所属等	備考
芦田 邦子	一般社団法人あじさいネット 代表理事	
加藤 武司	一般社団法人日本精神科看護協会 大阪支部 【(地独) 大阪精神医療センター 副看護師長】	—
栄 セツコ	桃山学院大学社会学部ソーシャルデザイン学科 教授	協議会委員
澤 滋	一般社団法人大阪精神科病院協会 副会長 【(社医) 北斗会 理事長 (社医) 北斗会 さわ病院 院長】	
島田 泰輔	一般社団法人大阪精神保健福祉士協会 会長 【堺市こども相談所】	
たにぐち まゆ	大阪精神障害者連絡会	—

(計6名)

病院関係者

関山 隆史	一般社団法人大阪精神科病院協会 理事 【(医) 松柏会 榎坂病院 理事長・院長】	
-------	---	--

令和6年度 大阪市障がい者施策推進協議会 精神障がい者地域生活支援部会

第1回 ワーキング会議

1. 日 時 令和6年11月26日（火）午後6時00分～8時00分
2. 場 所 大阪市こころの健康センター大会議室
3. 出席委員 芦田委員、加藤委員、栄委員、澤委員、島田委員、たにぐち委員（五十音順）
関係者 関山氏（大阪精神科病院協会 理事）
4. 会議内容

議題1 ワーキング会議座長選出

- ・座長には栄委員を選出。

議題2 大阪市障がい者等基礎調査について

調査実施方法について説明

（ 委員からの主な意見 ）

- ・ 調査対象者を障がい児も含むのか、障がい者のみとするのか明確にしてほしい。
- ・ 長期入院者のみを対象とするのか、慢性期病棟だけを対象とするのかなど配布対象を病院に任せるのではなく、調査目的を考慮し、配布対象者の限定を病院に依頼してはどうか。
- ・ 病院機能や、患者の年齢層を考慮しないと施策を立案する際に意味のある数字が出るのか疑問が残る。

調査票について説明

（ 委員からの主な意見 ）

- ・ 介助者という表記を支援者表記にしてはどうか。
- ・ 生活保護かどうかなど収入に関することを聞くべきではないか。
- ・ 看護師などの手伝いを受けるかどうか尋ねてはどうか。
- ・ 医療的ケアに関することや、活動状況を尋ねてはどうか。
- ・ 退院に関する思いの聞き方をもう少し精査してはどうか。
- ・ 退院後の生活についての希望が入院前と変わらないか尋ねてはどうか。
- ・ 退院したらしてみたいことを尋ねてはどうか。

令和6年度 大阪市障がい者施策推進協議会 精神障がい者地域生活支援部会

第2回 ワーキング会議

1. 日 時 令和6年12月17日（火）午後6時00分～8時00分
2. 場 所 大阪市こころの健康センター大会議室
3. 出席委員 芦田委員、加藤委員、栄委員、澤委員、島田委員（五十音順）
関係者 関山氏（大阪精神科病院協会 理事）
4. 会議内容

議題1 大阪市障がい者等基礎調査（案）について

調査実施方法について説明

（ 委員からの主な意見 ）

- 長期に入院している人が意思表示をできなくなっているかが懸念される。意思の表出ができるように病院職員の協力をいただきたい。
- 調査について病院に説明に行くときには、病院長だけでなく、看護師やソーシャルワーカーも含めて調査について理解、協力が得られるよう努めてもらいたい。
- 調査の精度を高めるために、回答の仕方について検討いただきたい。
- 対象病院、対象者数については、座長・オブザーバーと調整のうえ、事務局に委ねる。

議題2 大阪市障がい者等基礎調査について

調査票について説明

（ 委員からの主な意見 ）

- 退院をして必要と思うこと（問27）と退院をするにあたり不安に思うこと（問28）の設問内容が重複しているため統合してはどうか。
- 退院に関する不安などを尋ねる設問（問30）はそれまでの質問で類似したことを聞くのであれば不要ではないか。
- その他設問内容、選択肢の修正・整理に関する意見があった。